

「新しい生活スタイル」



～ステイホームから
ウィズコロナへ～



2020年春先、世界を襲った新型コロナウイルスのまん延。そして日本でも緊急事態宣言。休業要請、ステイホーム、臨時休校、テレワーク…。予想だにできなかったさまざまな事態に、私達はうろたえながらも、頑張りました。今回のパレットでは、そんなコロナ禍の各家庭や仕事、地域の様子から、見えてきた課題や今後の展開などをお届けします。



家庭
home

▲在宅勤務なので、自分から率先して夕飯づくりを試みた。(パパ)

→今もときどき料理にトライしている。

- ▲1年生の学習を1から教える難しさや、遊びと学習の時間の切り替えが大変だった。(ママ)
- 夏休み以上の長期休みを一緒に経験し、子どもと向き合う大切さを学んだ。
- ▲県外に住む母が心配だし、子どもたちもおばあちゃんに会えないと寂しかった。(ママ)
- 今までのように会いに行けない分、顔が見えるテレビ電話をうまく活用していきたい。



パパが作った竹馬で遊んだよ

- ▲学校に行かなくていいのは、好きなことできるしラッキー。(小学生)
- 学校が始まると規則正しい生活にするのが大変で毎日眠い。でも、やっぱり学校で友達や先生と会話したり勉強したりできるという、いつも通りの生活に安心する。
- ▲勉強の進み具合が不安で、勉強したいと思った。勉強や文化祭はどうなるのか。(高校生)
- いざ学校が始まると勉強が大変。恒例行事が中止、または縮小することは残念だが、それなりに進んでいる。



おばあちゃんとテレビ電話中



仕事
jobs

□テレワーク（在宅勤務）になり、通勤時間がなくなった。

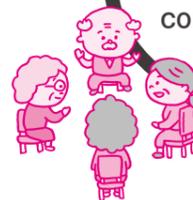
→テレワークは継続中。満員電車に乗らずに済むので、自分の時間が増えた。

- 仕事面で特に変化はなかった。
- WEB会議は、慣れないので時間がかかる。また、通信環境のせいでコミュニケーションがうまくいかずストレスがたまる。
- 遠距離の場合は出張費がかからないなど、WEB会議のメリットに気付くいい機会になった。
- 飲食店を経営しているが、テイクアウトや営業変更など慣れないことばかりで大変。休業期間を使って店内の改装を試みた。
- 解除後に、常連さんが戻りつつある。要望があればテイクアウトも柔軟に対応できるので、販売の幅が広がった。
- 夫は変わらず仕事に出ているので、私は自分の仕事と家事、育児の両立が大変だった。
- 緊急事態とはいえ、女性の負担が多いと感じた。第2派が来て、また休校となれば、自分の仕事を減らすしかない。



在宅ワークでデスク回りを改良

地域
community



♥自治会の集まりなどもなくなり、情報共有や意見交換ができなくなった。

→集まりも徐々に再開しているが、会わずに済むところは書面決議にしたり、集まる時間も短縮したりしている。

- ♥通っている病院にも、怖くて行けなくなってしまった。
- 定期的に診察が必要な病気の場合は行くけれど、なるべく病院にかからない方がいいと思うようになった。
- ♥地域のみんなでのマスク作りが意外に楽しかった。
- 開催できなかった敬老会の代わりに、マスクをプレゼントするよう計画中。

まとめ

ウイルス感染者ゼロの島田市ですが、それでも毎日報道を見聞きし、働き方や休日の過ごし方などについて考えさせられた人も多かったのではないかと思います。

終息に向かいつつも決定的な解決策がない今、コロナと共に暮らす「ウィズコロナ」の時代。今後いつでも発生する可能性がある新型コロナウイルスなどの脅威。それらに対応し、自分（個々）に合った暮らし方を自分（個々）で選択していく柔軟性が必要となっていくのではないのでしょうか。

あなたは今回の事態をどのように感じ、どのように今後にかかしていきたいと思いませんか。

みんなからの声募集

皆さんの「ウィズコロナ」の生活、これから考えていきたいことなど、ぜひご意見をお寄せください！

Eメール
shiminkyodo@city.shimada.lg.jp
※Facebookでもご意見募集中です！

パレットFacebookページ▶

